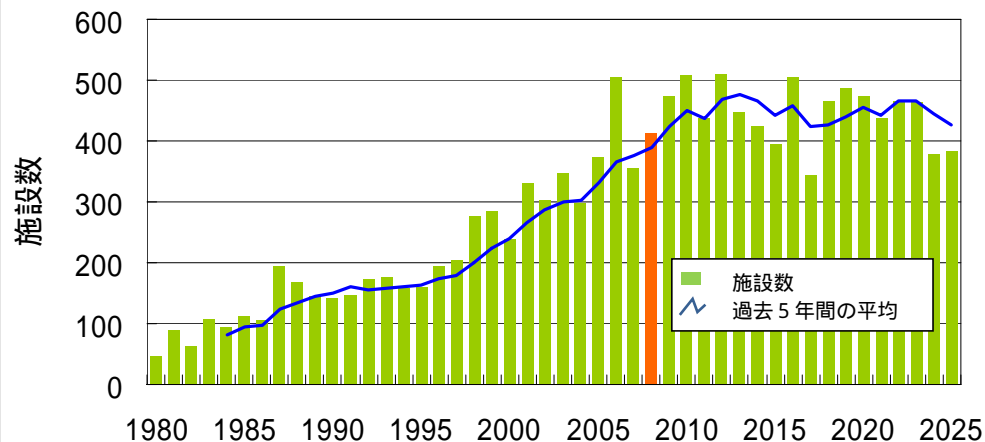


施設の老朽化と効率的な保全・更新対策

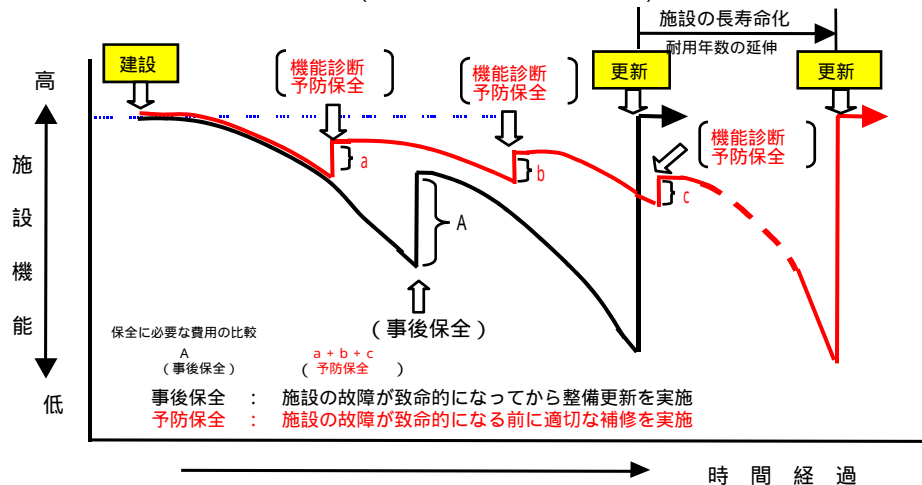
今後、更新時期を迎える農業水利施設数が大幅に増加することから、現施設を適切に管理し、効率的な保全と更新が必要。既存ストックの有効利用のため、適時の施設診断や予防保全対策を実施することにより、施設の長寿命化を図り、トータルとしての費用を節減する対策を実施。

耐用年数を迎える施設数の推移



注1: 基幹的農業水利施設とは、受益面積100ha以上のダム、頭首工、用排水機場、水路等の施設
 注2: 上表は、土地改良事業の経済効果算定に用いる標準耐用年数を用い、耐用年数に達したものは更新されるものとして作成
 資料: 「農業基盤整備基礎調査」(平成18年3月時点)

長寿命化(早期発見・早期治療)のイメージ

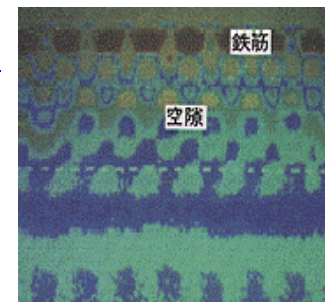


機能診断

先進技術を活用した機能診断により劣化の進行状況や原因を把握



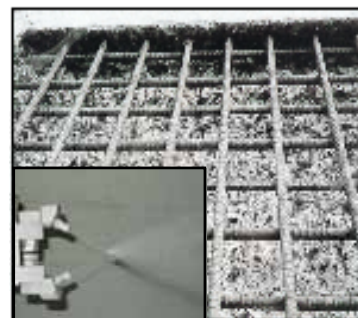
無人調査機により、パイプライン周辺の空洞化等危険箇所を調査



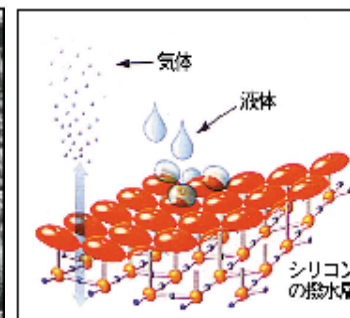
コンクリート内部の劣化状況を電磁波により調査

予防保全対策

施設の故障が致命的になる前に適切な補修を実施



高速水噴流によりコンクリートの局所的な除去、充填による劣化補修



吸水防止剤を用いた塩害によるコンクリートの劣化の防止